

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400187		
法人名	社会福祉法人 永熊会		
事業所名	グループホーム きらめき ふれあいユニット		
所在地	愛知県名古屋市長区南大高四丁目107番地		
自己評価作成日	平成28年 9月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2391400187-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族様には面会時に日頃の様子をお伝えし、ご本人の生活歴の聞き取りや、家族様の意向を確認をしながら、信頼関係を作っています。職員不足により、本来のグループホームの役割が出来ていない事が多々ありますが、落ち着いてきたため、食事、入浴、散歩に力を入れて取り組みます。朝のラジオ体操、リハビリ体操、毎食前の口腔体操は継続してできています。今後は、花壇、畑を作ります。入居者の介護度が高いユニットですが、介護度4の入居者様(徘徊が強く夜間転倒を繰り返している方が穏やかに過ごせるようになった事は職員の気づきや努力が評価できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交代して1年、法人の組織は変更になったが、管理者・職員は利用者の日々の暮らしを地道に支え、今年度の家族アンケートでは項目ごとの満足の評価が増えた。
 管理者は新しいホーム運営に着手し、職員の「実行できるような提案」があれば取り入れており、花壇が実現した。今まで管理者がやっていた新規の利用者の面接には最初からリーダーも関わり、早い段階で利用者・家族と顔の見える関係が築けており、以降の家族との関係も良好である。
 ホーム便りには居室担当者のコメント、行事や活動時の写真(裁縫・調理をする等)を取り入れ、家族訪問時には担当職員だけでなく他職員も利用者の近況を伝えている。職員同士のチームワークも良く、管理者との信頼関係も構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につくところに理念を貼り、周知している。(法人変更に伴い、理念変更予定)	法人理念＝グループホーム理念となっているが、法人変更に伴い理念に「礼儀・柔和・謙虚」を加え作成中である。	理念を作成中であるが、理念を展開した具体的な目標を掲げ、職員全員が共有して取り組んで行くことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学区の夏祭りに参加。約半数の入居者が祭りを楽しめた。施設の夏祭りに地域の方を招待。浴衣を着て、盆踊りを踊っていただいたり、子供たちは太鼓を叩いたり、屋台のお手伝いをして頂いた。約30名程の方が参加されました。	自治会に加入したばかりで地域行事への参加は少ないが、学区の祭りやホーム祭りには相互交流がある。保育園の園長がホームの第三者委員になっており、地域交流が始まったばかりである。	ホームが建物の2階にあるが、散歩や花壇の手入れ時に地域の人と挨拶や言葉を交わす等、地道な交流を続け、地域の一員として交流の輪を広げていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学区の夏祭り参加時に入居者の様子をお伝えした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成28年8月27日(土)夏祭りの前に開催。今後は定期的な開催に取り組みます	運営推進会議には併設の特養施設と合同開催の形をとっており、町内会長・家族・利用者・施設長・管理者が参加して1回開催している。	まずは運営推進会議の定期的な開催、行政、知見者等の参加を得て、外部の目を通してホームの取り組みや具体的な改善課題を話し合い、ホーム運営に活かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緑区役所 保護係、介護保険係との連携を取っている	生活保護の受給者が2名入居している。区の保護係とは利用者だけでなく、利用者を取り巻く家族についても緊密な連携を図っている。管理者は市・高齢福祉課との関係作りにも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ユニットの出入り口の施錠は行っていない。会議やミーティング等で身体拘束の意味を伝えている	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解している。2階エレベーターの利用は制限されているが、2階の館内は自由に行き来でき、隣のユニットに行き行って将棋や碁をする利用者もいる。スピーチロックについてもミーティングに取り上げ、その場で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。個人的に虐待について話したり、会議の議題に挙げています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、面会の際なども、家族とのコミュニケーションを大切にし、家族の意向や想いを大切にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口や各階に意見箱を設置している。その他、区役所	家族アンケートでは「要望を真摯に対応してくれる」「相談に乗ってくれる」等のコメントが寄せられている。家族の訪問時には、担当職員だけでなく他の職員からも近況報告ができるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、ユニット会議開催 各委員会開催	職員から「利用者に動いてもらうために花壇を作りたい」との提案があり、複合施設の前に花壇が出来た。管理者・職員共に改善意欲は高く「施設内を含めた交流がしたい」「クラブ活動がしたい」等の提案が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の募集を掲示し、自主的に参加できる環境を整えている。各リーダーはシフトを調整する。研修後は報告書を提出する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他施設職員と交流し、ケアの取り組み等 意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出勤したら、まず一人ひとりと笑顔で挨拶をする。コミュニケーションを大切に、否定せず受け入れる。話しやすい環境作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで入居者様の状況を報告し、家族の意見や相談を親身に聞いている。早い対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の様子、本人の気持ち、家族の意向、必要な支援を話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の表情の観察を行い、性格や生活感を見つけ出し、職員間で共有する、その人らしく生活できる環境を整える		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の名前を把握し、本人が慣れ親しんだ呼び方で、本人と会話する事で家族の言葉や想いを代弁している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に、その方と入居者がどのような関係で過ごしていたか等、聞かせて頂き気軽に来訪できる環境を作っている。入居前、近所に住んでいた方が時々会いに来てくださる	近所に住んでいた友人が定期的に訪ねて来て、利用者を誘って喫茶店に出掛けており、馴染みの関係が途切れないように支援している。利用者の得意の編み物、裁縫の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる事、できない事や性格の把握、日々の表情を観察し、スタッフが間に入り話しやすい環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院の見込みがなく退去された方や他施設に転居された方に電話で その後の様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは、入居者の毎日の様子を見る。職員に観察力をつけるため、歩行の状態、歩き方、会話している時の表情の観察から開始。そこから、本人の思いや意向を把握できるよう努めている。	利用者の思いを把握するために、利用者の事を第一に考えて自分に置き換えて考えるようにしている。職員は、利用者の耳元でゆっくり話し、仕草・アイコンタクト等から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話から生活歴を聞き出したり、家族の訪問時に、情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴、病歴の把握をし、残存機能を生かすような声かけ、促しを行っている。できる、できないを見極めながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日勤帯が毎日、実施できているかの確認を行い、毎月、居室担当が評価している	利用者の担当職員が毎月ケアプランのモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画作成担当者が利用者・家族の意向を基に介護計画を作成している。「個別ケア」の感じられる介護計画には至っていない。	気づきは口頭の申し送りに留まっており、利用者の発した言葉の吟味が成されていない。職員が共有するためにも、介護計画作成までの一連の取り組みに整合性を持たせて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をモバイルに入力するよう伝えられているが、毎日とは出来ていない。前日の記録を確認、関わりや気づきの記録が毎日できる習慣が身につくよう指導しているが難しい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族、他職種との意見の反映や共有には、まだまだ改善点が多くあると思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学区の夏祭り、施設の夏祭りで交流ができた。これを機に地域に根付いたホームになるよう努めていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医は、本人や家族の意向も受け入れ、薬の調整等、要望に応じてくださる。緊急以外の病院受診は家族にお願いしているが、認知が重くなり家族で対応が難しい場合やどうしても都合がつかない場合は職員が対応している	協力医は週1回の往診の他、緊急時にも対応が可能であり、利用者・家族だけでなく、職員の安心にも繋がっている。かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、緊急時等は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、嘱託医の訪問があるため情報を共有している。それ以外では、併設の特養ナースに相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会に行き、担当看護師やケースワーカーと、状態確認、治療内容、今後に向けての話し合い等をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する支援について、今後は終末に対する家族の意向等を確認、話し合っていく必要がある。今後、看取りのニーズが増えると予測されるため、職員教育も行っていく	ホーム協力医の24時間の応援体制もあり、管理者は利用者・家族の意向があれば看取り支援を行う思いがある。しかし、職員の体制が整っていないため、教育体制を整えてから看取り支援に対応していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	継続的な知識と技術の習得に努めていく必要がある。夜間については施設全体でシミュレーションを行っていく予定。急変の可能性のある時は、夜間急変時の手順を確認し慌てず行動できるよう話している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策については法人内で統一したマニュアルがあり、それに伴い統一されているが、地域の協力は、今後呼びかけていく	緊急避難場所に指定されているが、今年度は災害のための訓練は行わなかった。地域住人を含めた非常時の水・食料が備蓄されている。	災害はいつ起こるかわからない。早急に消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等、定期的な実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者同士の会話や日常のケア時、表情の観察を行っている。ミーティング等で、その人に合わせた声のかけ方を話し合っている	余り喋らない利用者の耳元でゆっくりと話し、仕草・アイコンタクト等で想いを汲み取っている。職員は、相手のことを第一に考え、自分のことに置き換えて支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない方(現在1名)には、日常の様子や予め家族から聞いていた情報から予測を立てて声をかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床～朝食は個々のペースや体調に合わせている 日中は可能な限り本人の希望に沿った支援を行い、表情の観察を行いレクリエーションを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の支援として身だしなみや整容には配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを巻いたり、洗濯済みのタオルを干す手伝いをお願いしている。食事の準備は現在、職員が行っているため改善に向けて意識統一を図っている。	6月より食事を外注にした。利用者の力量・要望に合わせ、盛り付け、おしぼり作り等の役割がある。月2回の食事レクと誕生会には利用者と共に行き、手作りの食事もある。畑で育てた野菜も食卓に上がる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と連携を取り、食思低下や体調不良時は迅速に対応している 職員間での申し送りを徹底し摂取状況を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、定期的な口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほぼ自立、失敗も少ない。夜間帯も覚醒している時はトイレの声かけ、誘導を行っている	各居室にトイレが設置されている。多くの利用者は排泄自立している。排泄チェック表を利用し、仕草や体動等の動きからさりげない誘導を行い、失禁を減少させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事チェック表に水分量を記入している。足りない方には声をかけ促している。運動不足にならないよう体操、散歩を日常的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、週2回必ず入浴又は清拭を行っている。今後は希望者には毎日入浴できる体制作ります	ユニットの中心に機械浴槽(2人対応)と普通浴槽とがあり、週2回の入浴機会がある。馴染みの入浴グッズを使用して、ゆったりした入浴になるように努めている。入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の理解は難しいが職員は薬情で内容を確認し把握するよう努めている、薬内容が変更になった場合は、家族に伝えている希望される家族には薬情をコピーし渡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を職員間で共有している。寂しい表情をしている時は声をかけ喜びのある生活が送れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	熱中症が心配な時期でも玄関先で夏の暑さを感じていただいています。外食レクや花見等、定期的に外出をしています	玄関前は交通量が多く、外出には職員の付き添いが必要であるが、食事作りを外注にして空いた時間で、週2回のホーム周辺の散歩を行っている。職員からの意見で季節を感じる事が出来る花壇の手入れや植木の水やり、野菜の収穫を行っている。	10月より誕生日外出が実現した。さらに、気分転換や五感の刺激、本人の思いに添った外出(個別外出)を取り入れ、その人らしい暮らしを保って本人の意欲や自立を保つための外出支援の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は行っていない。希望時は買い物に同行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば本人に代わるようにしている。手紙を書く方には住所を大きな字で書き、本人が書きやすいように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる工夫をしている。施設っぽくならないよう配慮している	ユニットの出入り口には、出勤者の顔写真が掲示してある。台所・リビングには死角はなく、見守りがし易くなっている。家庭的な雰囲気大切にしており、あえて壁面の掲示物を少なくしている。水槽の金魚の餌やりが楽しみであり、ゆったりとした空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際のソファを自分の居場所に行っている方やテレビの前のソファに座りゆったり過ごされている方がいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い馴れたその人らしい物を持ってきていただくようお話ししています	利用者と共に掃除がされた居室は整理整頓が行き届き、清潔感のある居室が多い。利用者の作品や昔の映画俳優の本・裁縫用具・化粧品・家族写真等が持ち込まれ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるまで一時的に大きな字を書き目印にしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400187		
法人名	社会福祉法人 永熊会		
事業所名	グループホーム きらめき めくもりユニット		
所在地	愛知県名古屋市長区南大高四丁目107番地		
自己評価作成日	平成28年 9月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JkyosyoCd=2391400187-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族様には面会時に日頃の様子をお伝えし、ご本人の生活歴の聞き取りや、家族様の意向を確認をしながら、信頼関係を作っています。職員不足により、本来のグループホームの役割が出来ていない事が多くありますが、落ち着いてきたため、食事、入浴、散歩に力を入れて取り組みます。朝のラジオ体操、リハビリ体操、毎食前の口腔体操は継続してできています。今後は、花壇、畑を作ります。介護経験が長い職員が多いため、リーダー不在時でも対応できている。入居者と一緒にのんびり過ごしている場面が毎日あり、ゆったりした空気の流れがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につくところに理念を貼り、周知している。(法人変更に伴い、理念変更予定)		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学区の夏祭りに参加。約半数の入居者が祭りを楽しめた。施設の夏祭りに地域の方を招待。浴衣を着て、盆踊りを踊っていただいたり、子供たちは太鼓を叩いたり、屋台のお手伝いをして頂いた。約30名程の方が参加されました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学区の夏祭り参加時に入居者の様子をお伝えした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成28年8月27日(土)夏祭りの前に開催。今後は定期的な開催に取り組みます		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緑区役所 保護係、介護保険係との連携を取っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ユニットの出入り口の施錠は行っていない。会議やミーティング等で身体拘束の意味を伝えている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。個人的に虐待について話したり、会議の議題に挙げています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、面会の際なども、家族とのコミュニケーションを大切にし、家族の意向や想いを大切にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口や各階に意見箱を設置している。その他、区役所		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議、ユニット会議開催 各委員会開催		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修の募集を掲示し、自主的に参加できる環境を整えている。各リーダーはシフトを調整する。研修後は報告書を提出する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他施設職員と交流し、ケアの取り組み等 意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出勤したら、まず一人ひとりと笑顔で挨拶をする。コミュニケーションを大切に、否定せず受け入れる。話しやすい環境作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで入居者の状況を報告し、家族の意見や相談を親身に聞いている。早い対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の様子、本人の気持ち、家族の意向、必要な支援を話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の表情の観察を行い、性格や生活感を見つけ出し、職員間で共有する、その人らしく生活できる環境を整える		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の名前を把握し、本人が慣れ親しんだ呼び方で、本人と会話する事で家族の言葉や想いを代弁している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に、その方と入居者がどのような関係で過ごしていたか等、聞かせて頂き気軽に来訪できる環境を作っている。入居前、近所に住んでいた方が時々会いに来てくださる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる事、できない事や性格の把握、日々の表情を観察し、スタッフが間に入り話しやすい環境を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院の見込みがなく退去された方や他施設に転居された方に電話で その後の様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは、入居者の毎日の様子を見る。職員に観察力をつけるため、歩行の状態、歩き方、会話している時の表情の観察から開始。そこから、本人の思いや意向を把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話から生活歴を聞き出したり、家族の訪問時に、情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴、病歴の把握をし、残存機能を生かすような声かけ、促しを行っている。できる、できないを見極めながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日勤帯が毎日、実施できているかの確認を行い、毎月、居室担当が評価している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をモバイルに入力するよう伝えられているが、毎日とは出来ていない。前日の記録を確認、関わりや気づきの記録が毎日できる習慣が身につくよう指導しているが難しい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族、他職種との意見の反映や共有には、まだまだ改善点が多くあると思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学区の夏祭り、施設の夏祭りで交流ができた。これを機に地域に根付いたホームになるよう努めていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医は、本人や家族の意向も受け入れ、薬の調整等、要望に応じてくださる。緊急以外の病院受診は家族にお願いしているが、認知が重くなり家族で対応が難しい場合やどうしても都合がつかない場合は職員が対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、嘱託医の訪問があるため情報を共有している。それ以外では、併設の特養ナースに相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会に行き、担当看護師やケースワーカーと、状態確認、治療内容、今後に向けての話合い等をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する支援について、今後は終末に対する家族の意向等を確認、話し合っていく必要がある。今後、看取りのニーズが増えると予測されるため、職員教育も行っていく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	継続的な知識と技術の習得に努めていく必要がある。夜間については施設全体でシュミレーションを行っていく予定。急変の可能性のある時は、夜間急変時の手順を確認し慌てず行動できるよう話している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策については法人内で統一したマニュアルがあり、それに伴い統一されているが、地域の協力は、今後呼びかけていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者同士の会話や日常のケア時、表情の観察を行っている。ミーティング等で、その人に合わせた声のかけ方を話し合っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない方(現在1名)には、日常の様子や予め家族から聞いていた情報から予測を立てて声をかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床～朝食は個々のペースや体調に合わせている 日中は可能な限り本人の希望に沿った支援を行い、表情の観察を行いレクレーションを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の支援として身だしなみや整容には配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを巻いたり、洗濯済みのタオルを干す手伝いをお願いしている。食事の準備は現在、職員が行っているため改善に向けて意識統一を図っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と連携を取り、食思低下や体調不良時は迅速に対応している 職員間での申し送りを徹底し摂取状況を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、定期的な口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほぼ自立、失敗も少ない。夜間帯も覚醒している時はトイレの声かけ、誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事チェック表に水分量を記入している。足りない方には声をかけ促している。運動不足にならないよう体操、散歩を日常的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、週2回必ず入浴又は清拭を行っている。今後は希望者には毎日入浴できる体制作ります		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の理解は難しいが職員は薬情で内容を確認し把握するよう努めている、薬内容が変更になった場合は、家族に伝えている希望される家族には薬情をコピーし渡している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を職員間で共有している。寂しい表情をしている時は声をかけ喜びのある生活が送れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	熱中症が心配な時期でも玄関先で夏の暑さを感じていただいています。外食レクや花見等、定期的に外出をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は行っていない。希望時は買い物に同行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば本人に代わるようにしている。手紙を書く方には住所を大きな字で書き、本人が書きやすいように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる工夫をしている。施設ぽくならないよう配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際のソファを自分の居場所に行っている方やテレビの前のソファに座りゆったり過ごされている方がいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い馴れたその人らしい物を持ってきていただくようお願いしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるまで一時的に大きな字を書き目印にしています。		